

保護者様

岐阜県立岐阜北高等学校
校長 鈴木 健

冬季休暇を前にして

師走の候、保護者の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今年度の冬季休業期間は12月23日から1月4日までとなり、この期間お子様は家庭を中心に生活を送ることになります。これからの目標や課題を再確認し、計画的に家庭学習に取り組むとともに、年末・年始の諸行事等を通して、家庭や地域社会の一員として自覚を深め、心豊かな生活を送る絶好の機会でもあります。一方、休業中の開放的な雰囲気の中で生活が不規則になることや、自己のあるべき姿を見失うこと等が懸念されます。お子様の健やかな成長は、ご家族・学校の共通した願いです。特に下記のような項目に関して家庭におかれましても格別のご配慮をお願い申し上げます。

1 「命を守るプロジェクト」 家庭での自転車乗車用ヘルメット購入の検討について【お願い】

自転車は、生活に密着した身近な乗り物として多くの人に利用されています。しかしながら、本校では主たる原因者が自転車走行中である交通事故が数多く発生しています。**今年度11月末現在31件発生、前年度同時期より5件増、前年一年間の発生件数を超えています。**(県内令和4年度自転車関連事故件数は430件、本校26件)。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5	6	9	4	3	2	2	3	2					31
R4	3	4	5	3	3	2	2	3	0	0	0	1	26
R3	2	2	2	1	1	0	1	3	5	1	1	0	19
R2	0	0	6	3	2	1	3	2	2	2	2	1	24

4月施行の改正道路交通法で、自転車利用者のヘルメット着用が全年齢の努力義務となりました。7月に警察当局が実施した全国調査結果によるとヘルメット着用率は13.5%、岐阜県は11.4%でした。昨年度に引き続き、北高祭【文化の部】にて交通ルール遵守の徹底と自転車ヘルメット着用推進を目的とした交通安全普及啓発活動「命を守るプロジェクト」を実施しました。本校の着用率は11.38%(4月調べ)、啓発活動を重ねることで今年度末には15%まで上げることを目標としています。

※9月実施の調査で14.8パーセント 1年生32.3パーセント 2年生5.2% 3年生5.2%



当日はヘルメットの展示会も行い、合計48個の予約販売をしました。**北斗会(同窓会)から生徒向けに2,000円を補助していただけます。**なお、**販売業者の協賛もある価格帯での販売は、今後も各店舗で継続していただけます。**ご購入を希望する場合、ヘルメットの種類・価格・販売店については、「9月1日(金)配信のClassi【生徒指導部より】自転車乗車用ヘルメットの展示・販売について」の別添資料を参照してください。

※ご質問等ございましたら生徒指導部までお願いします。見本も数点用意しております。

自転車の安全利用の促進



乗車用ヘルメット着用についてはあくまでも努力義務ですが

本校では**安全のため、ヘルメットの着用を推奨しています。**

着用については各家庭で生徒と保護者様で話し合いをお願いします。乗車用ヘルメットに特に指定はありませんし、すでにお持ちのものでもかまいません。

なお、着用について今後指導していきますのでご理解いただけますようお願いいたします。また、交通安全への心がけにご協力を賜りますようお願いいたします。



・自転車利用者は、乗車用ヘルメットを着用するよう努めなければならない。

☞ ヘルメット着用は自転車利用者の努力義務

・保護者は、その保護する児童生徒等に乗車用ヘルメットを着用させるよう努めなければならない。

☞ ヘルメットを着用させるのは保護者の努力義務

(出典:岐阜県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例)



2 「休みたい」は SOS のことも ※文部科学省は不登校の定義を「年間 30 日以上欠席」としています

文部科学省は令和 4 年度不登校であった全国の児童・生徒数が、10 年連続で過去最多を更新したと公表しました。注目したいのが特にこの 2 年間で一気におよそ 10 万人が増えたことです。

ではなぜ、ここ最近、不登校が急速に増えたのでしょうか。文部科学省は「不登校の理由は様々なので一概には言えない」としつつも、「コロナ禍の長期化で生活環境が変化したことや、学校生活でのさまざまな制限で交友関係が築きにくくなったことなどが背景にある」と分析しています。

社会はかつての日常を取り戻しつつありますが、子どもの心はそう簡単ではありません。長期休暇のあとに不登校が増えると言われる。休暇中、子どもたちとどのように過ごせばいいのか、またどんな点に注意すればいいのでしょうか。また、子どもたちのどんな心理状態が作用しているのでしょうか。大人たちが日々、丁寧に向き合っていく必要があると思います。

不登校の傾向がある子どもは、休みがあると楽になると言われています。心が軽くなって、本来の自分の姿に戻るわけです。でも、休み明けが近づくにつれて、学校での生活を思い出し、戻るのはムリかもしれない……と感じてしまうわけです。

一方で「休みたい」と言葉にする子どももいます。専門家によるとこれは子どもから出す最後の SOS。たとえて言うなら、110 番や 119 番にかけられるような気持ちで、決死の覚悟で発した SOS の言葉かもしれません。

しかし、中には、連休明けでなくてもしばしば「行きたくない」と言っている場合もあり、「ちょっと頑張れば慣れるはず…」と無理に登校を促すべきか迷う場合もあるかもしれません。判断に迷う場合は、専門家のいる相談機関をたよることもひとつの手段です。冬季休業期間中や休日、夜間などでも、いろいろと相談できる窓口があります。お子様に何か変わった様子があったときや困ったときなどには、ぜひ参考にしてください。

電話 「子供SOS24」(夜間・休日・祝日を含めた24時間体制)

☆いじめ、不登校、学習、進路、友だち、親子関係、人権に関すること等の相談

フリーダイヤル(無料)

携帯電話からでもつながります。



0120-0-78310

電話 教育相談ほほえみダイヤル 月～金曜日 9:30～16:15

(祝日、年末年始は除きます)

☆いじめ、不登校、学習、進路、友だち、親子関係、人権に関すること等の相談

相談対象

小学生から高校生までの児童生徒とその保護者等です。

フリーダイヤル(無料)

携帯電話からはつながりません。



0120-745-070

「子ども相談センターSNS相談」について

子育てや親子関係について悩んだときに、子ども(18歳未満)とその保護者の方などが相談できる窓口です。無料かつ匿名での相談も可能で、秘密も守られます。気軽にご相談ください。

≪平日 10 時～20 時まで(祝日・年末年始を除く)≫

【利用方法(4ステップ)】

①LINE アカウント「親子のための相談 LINE」を友だち登録。

※QR コードからか、(検索から)LINE の公式アカウント検索画面で、「親子のための相談 LINE」と検索

②チャットで相談」をタップし、お住いの都道府県・市町村を選択。

③表示された URL をタップし、内容を確認したうえで、「許可する」をタップ。(初回のみ)

④必要情報を入力した上で、「相談をはじめ」をタップ。(初回のみ)



知らせてほしい、心のSOS。

心がもやもやしたり、ざわついたら、ひとりで悩まず伝えてほしい。



■冬季休業中であっても、お困り事や相談したいことがあれば、Classi やメール等で連絡してください。

※ただし、Classi やメール連絡は確認が遅れる場合があります。お急ぎの場合は下記の電話番号にお願いします。

・電話番号 058-231-6628 (平日 8 時 20 分～16 時 50 分)

・緊急の連絡はコロナ関係で使う携帯 080-8250-0525(教頭)

※なお、12 月 29 日(金)から 1 月 3 日(水)は学校の休業日ですので、ご承知おきください。